

2 - 3 房総南東沖の地震活動

Seismic Activity to the Southeast off the Boso Peninsula

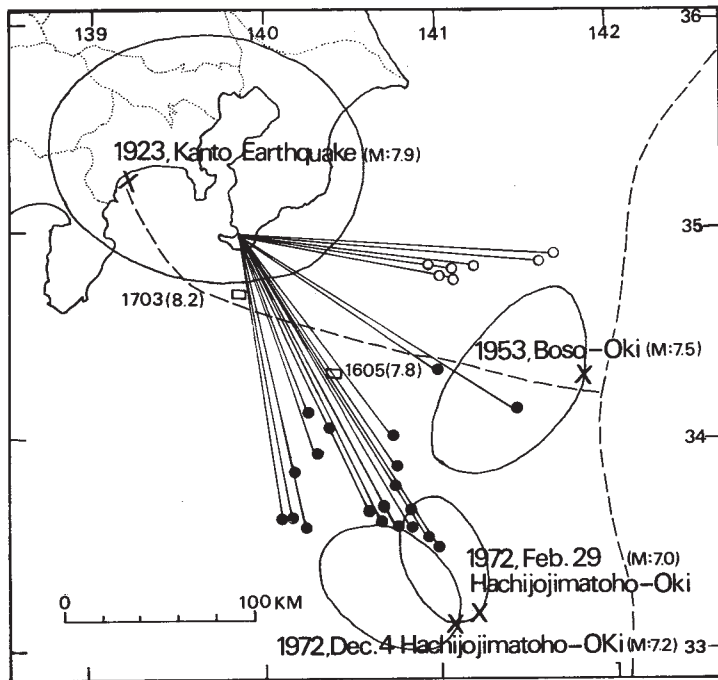
気象庁 地震課・地震活動検測センター
Seismological Division and SAMC,
Japan Meteorological Agency

房総とその関東の海域には第1図のように1923年の関東大地震と1953年の房総沖地震、1972年の2月29日と12月4日の八丈島東方沖地震などが起きているが、1605年や1703年の大地震が起こったと推定される地域にはそれ以後大きな地震は起っていない。このように近い過去に大地震の震源域となっていない部分（空白域）に、次の大地震が起こりやすいことは1973年の根室半島沖地震などの例からも明らかである。ただ松田¹⁾などによると、1703年のような大地震は地学的調査の結果では、1000年ないし1500年に1回程度の間隔で起こるものと考えられるとしている。しかし、房総南東沖の空白域とその周辺には第2図のように1973年のはじめから1974年にかけて時々地震が群発するようになった。このような地震活動が今後どう変化するかは、これからの観測に待つ以外にないが、一応周辺に発生する浅い地震（第1図の黒丸印、白丸は相模トラフの北側に発生したもの）を使って空白域と思われる領域の V_P / V_S の変動を求めて見た。第3図がそれである。方法としては従来から求めている館山の観測値と発震時 O を使った $V_P / V_S = \frac{S-O}{P-O}$, $k - 1 = \frac{S-P}{P-O}$ の式である。結果としては図のように最近特に有意な変動があるという結果は得られなかった。

参 考 文 献

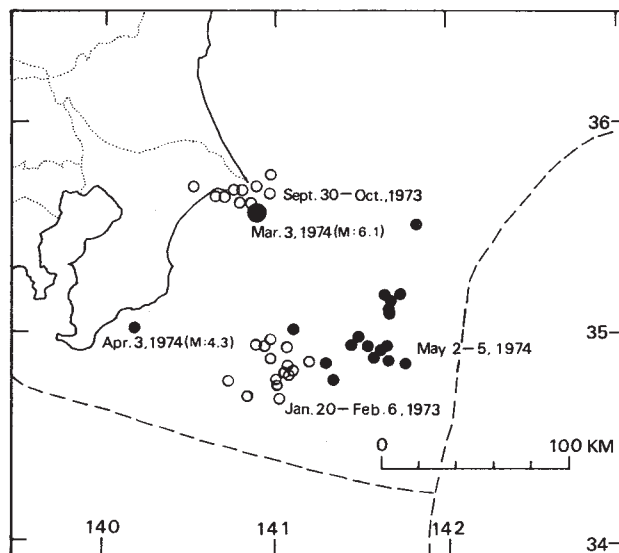
(1) 松田時彦ほか（1974）：元禄関東地震（1703年）の地学的研究，

「関東地方の地震と地殻変動」（ラティス刊）PP.175 - 192.



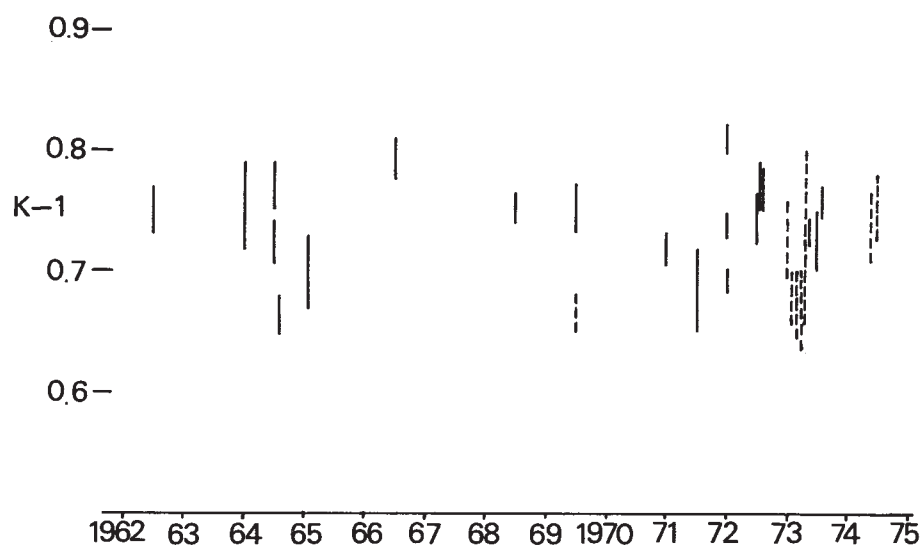
第 1 図 房総南東沖に発生した大地震の分布とその余震域

Fig. 1 Distribution of large earthquakes that occurred to the southeast off the Boso Peninsula and its aftershock region.



第 2 図 房総南東沖の最近の群発地震

Fig. 2 Recent earthquake swarms to the southeast off the Boso Peninsula.



第3図 房総南東沖の空白域を通過する V_p/V_s の変化
 (点線は相模トラフを通過しないもの)

Fig. 3 Change in V_p/V_s of seismic waves passing the seismicity gap to the southeast off the Boso Peninsula.